





Scio(スキオー)の意味

知るを意味するラテン語。science(科学)の語源にあたるscientia(知識)は、Scioの派生語とされています。

鹿児島高校生第3学年のみなさんへ

本年も、はや半年が過ぎようとしており、時の早さを感じるこの頃、みなさんにおかれましては、実り多い半年であったことと拝察いたします。

突然の手紙にさぞかし驚かれていますかと思えます。あなた方が高校最高学年となり、就職試験や大学入試、さらには、受験形態など進路についての様々な決断を迫られると聞き、時の流れと人の成長の速さに驚きながら、ことは自身の大切な進路についてです。あなた方により良い決断してもらいたいと、筆を執りました。

現在、日本では80%以上の高校生が大学などの高等教育機関に進学するそうです。一方で、20%程度の高校生は就職など実社会に出てゆくこととなります。就職によって、10年以上慣れ親しんだ学校から急に社会に出てゆきますし、進学した場合でも、高度で実践的な教育を受けながら、一方では、社会的にも一人前の人格としてあつかわれます。18才からは選挙権も持ちますが、高校を卒業することによって、実質的「社会人」となるわけです。

それは、「社会人」とは何なのでしょう。様々な意見があるでしょうが、文字通り考えれば、「日本人」とは「日本で生まれ、育った人」や「日本を構成している人」です。ならば、「社会人」とは「社会で生まれ、育った人」や「社会を構成している人」と考えられます。では、小中学生や高校生は「社会人」ではないのでしょうか。中学生で

も、学校、部活動、家庭という様々な社会の中に生きています。その点では、中高生も立派な「社会人」のはずです。しかし、一般的にはそのようには捉えられていません。なぜでしょうか。なぜなのかわかりません。しかし、結論として、「中高生は社会人ではない」ということになっています。

仮に「学校、部活動、家庭」という組織は「社会一般である」と定義してみよう(定義①とします)。学校は、国や地方公共団体、または法人が、教育基本法や学校教育法という法規に基づいて設置する組織であり、その中で、教員、生徒、保護者が「教え、教わり、見守る」機能を果たします。部活動でもこの関係は同様でしょう。家庭はどうでしょうか。家庭とは親権者であり、世帯主でもある親子と(親族を含める場合もあります)、「扶養し、扶養される」機能を果たす組織となります。このように考えると、組織はそれ自体としての機能性を果たすもの(②とします)になります。一方で、社会一般はどうでしょうか。社会一般にも様々な法規制があります。しかし、それらの法は社会一般が生み出したもので、法が社会一般を生み出したわけではありません。社会一般には国や公共団体のような設置団体も、親権者、世帯主にあたる親もなく、果たすべき機能もありません。社会一般とは人と人が様々な関係性を幾重にも結ぶ複合的集合体です(③とします)。したがって、②と③は似ているようですが同じではないもの、つまり②③④ではなく、②③④と異なることとなります。

「学校、部活動、家庭」という組織は「社会一般ではない」を証明してみましたが、大切なのは、我々は思っているほど社会のことを知らない、「個人が意識できる範囲だけで社会を理解したつもりになっている」ということです。しかし、知らないからこそ、学ぶのであり、社会に出てゆくのです。社会で生きるとは意識できる範囲を広げること、つまり、「学び続ける姿勢」を持つということです。就職するとは、「学び続ける姿勢」が完成しているということです。また、進学するとは、「学び続ける姿勢」が充分ではなく、もっと学ぶ経験(知識・技能の習得と思考力獲得)が必要ということです。就職か、進学か、「は確かに重要です。しかし、最も重要なのは、答えを出す前提としての「自分自身への理解」すなわち、「自己理解」だと思っています。

令和元年6月吉日

敬具

【進学指導主任】西村浩一

部活動の活躍

鹿児島県高等学校総合体育大会の結果

陸上競技部

5月29日、6月1日

- 女子1000m 1位 山崎千里(3J1 串木野中) 2位 寺地しい(1F3 出水) ...

フェンシング部

5月

男子団体

- 1位 水流颯(3F4 高岡中) 2位 林祥運(2J4 甲南中) ...

女子団体

- 1位 今村未羽(3J2 紫原中) 2位 山口藍(3J2 伊敷中) ...

水泳部

6月7日

男子総合2位

- 1位 早崎遼真(3F1 甲南中) 2位 岩元大秀(3F1 谷山北中) ...

女子総合2位

- 1位 早崎遼真(3F1 甲南中) 2位 北園祐希(1J1 南指宿中) ...

男子ソフトテニス部

5月26日

団体戦

- 1位 インターハイへの出場権獲得 2位 山口諒樹(3F3 東谷山中) ...

女子バドミントン部

5月27日、29日

女子団体

- 2位 菅牟田美奈(3F6 谷山北中) 3位 糸井友希(2J1 吉野中) ...

弓道部

5月31日

男子個人

- 3位 古里尚太(1EE1 松元中)

学びのヒント

インプットとアウトプット

数学科・曽方智之

最近では、「インプット」と「アウトプット」をテーマにした本が書店にたくさん並んでいるのを知っていますか。インプットとは、読む、聞く、経験するなどまさに「入力」の意味で、アウトプットは、話す、書いて伝えるなど「出力」の意味です。授業のほとんどはインプットだと思えます。先生の話を聞く、「黒板に書かれたことをノートに写す」など。それに対して、宿題はアウトプットの代表だと思えます。それでは、一週間前の数学の内容をできるだけ細かく思い出してください。すぐに「〇〇をした」と出てきた人は、素晴らしいですが多くの人は「えーっと...」と考えてしまうのではないのでしょうか。それでは、せっかくの授業、もしかしたら「なるほどっ」と思えたことも台無しです。知識を蓄えるうえで大切なインプットとアウトプットの割合は3(イン・)7(アウト)だそうです。また、ある本には「二週間以内に三回アウトプットした情報は強烈に記憶される」とありました。前に書いた、「宿題」だけがアウトプットではありません。部活動の友人や、他校の友人、家族に話すこともアウトプットですし、授業中に先生が質問したことに答えること、一緒に声を出すことも立派なアウトプットです。どんな情報も発信し、知識豊かな人間になってゆきたいですね。

エビングハウスの忘却曲線

